

令和4年度ナッジ手法を用いた 農林水産統計調査オンライン化推 進に係る調査委託事業

分析・考察結果報告書

令和5年2月

「令和４年度ナッジ手法を用いた農林水産統計調査オンライン化 推進に係る調査委託事業」 分析・考察結果報告書

目 次

内容

1	概要	2
1.1	本業務の概要	2
1.1.1	事業の目的	2
1.2	設計	3
1.2.1	対象統計調査及び規模	3
1.2.2	実施手順	3
1.2.3	実施体制	4
1.3	ヒアリングの実施	5
1.3.1	ヒアリングの基本的な要件	5
1.3.2	ヒアリング項目の作成	6
1.3.3	ヒアリング実施のその他準備	7
1.3.4	ヒアリングの実施結果	7
1.3.5	現状課題分析（対象者行動の特性整理）	8
1.4	資材の作成	11
1.4.1	資材作成の視点	11
1.4.2	【果樹調査】調査資材	13
1.4.3	【農業構造動態調査】調査資材	21
2	調査結果の分析・考察	29
2.1	実査（発送パターン設計）	29
2.1.1	果樹調査	29
2.1.2	農業構造動態調査	32
2.2	分析概要（果樹調査のみ）	35
2.2.1	分析対象データ	35
2.2.2	分析手法	35
2.3	果樹調査 調査結果の分析・考察	36
2.3.1	集計比較	36
2.3.2	検定	47
2.3.3	考察	50
2.3.4	その他	52
2.4	農業構造動態調査 分析申し送り事項	54
3	オンライン回答推進のための考察	57
3.1	運営方法の検討	57
3.1.1	オンライン回答の先行配布	57
3.1.2	前回値の確認方法の検討	57
3.2	記載する文言の工夫	58
3.2.1	回答可能より“お願い”表記	58
3.2.2	対象者側のメリットの記載	58
3.3	資材の検討	59
3.3.1	調査票発送用封筒への工夫	59
3.3.2	調査票への工夫	59

1 概要

1.1 本業務の概要

1.1.1 事業の目的

農林水産統計調査におけるオンライン回答率は、基幹統計調査（7 調査）において、「牛乳乳製品統計調査」以外の6 調査で非常に低い状況である。

政府統計については、国土交通省の「建設工事受注動態調査」における不適切事案の要因の一つに調査票入力作業の膨大な労力発生による業務過多が挙げられており、その再発防止策に労力軽減の一助としてオンライン回答の推進が求められているところ。

農林水産省においては、今後、地方統計職員の減少が想定される中、公的統計の品質の確保に繋げていく観点からも、オンライン回答率の向上に資するための調査を実施した。

1.2 設計

1.2.1 対象統計調査及び規模

本事業における対象の統計調査及び規模等については以下のとおり。

1.2.1.1 令和4年度作物統計調査のうち果樹調査（関係団体調査）

対象品目：日本なし・ぶどう

調査対象数：451 客体（日本なし 188 客体・ぶどう 263 客体）

主な調査客体：集出荷団体（農業協同組合等）、集出荷業者、産地集荷市場等

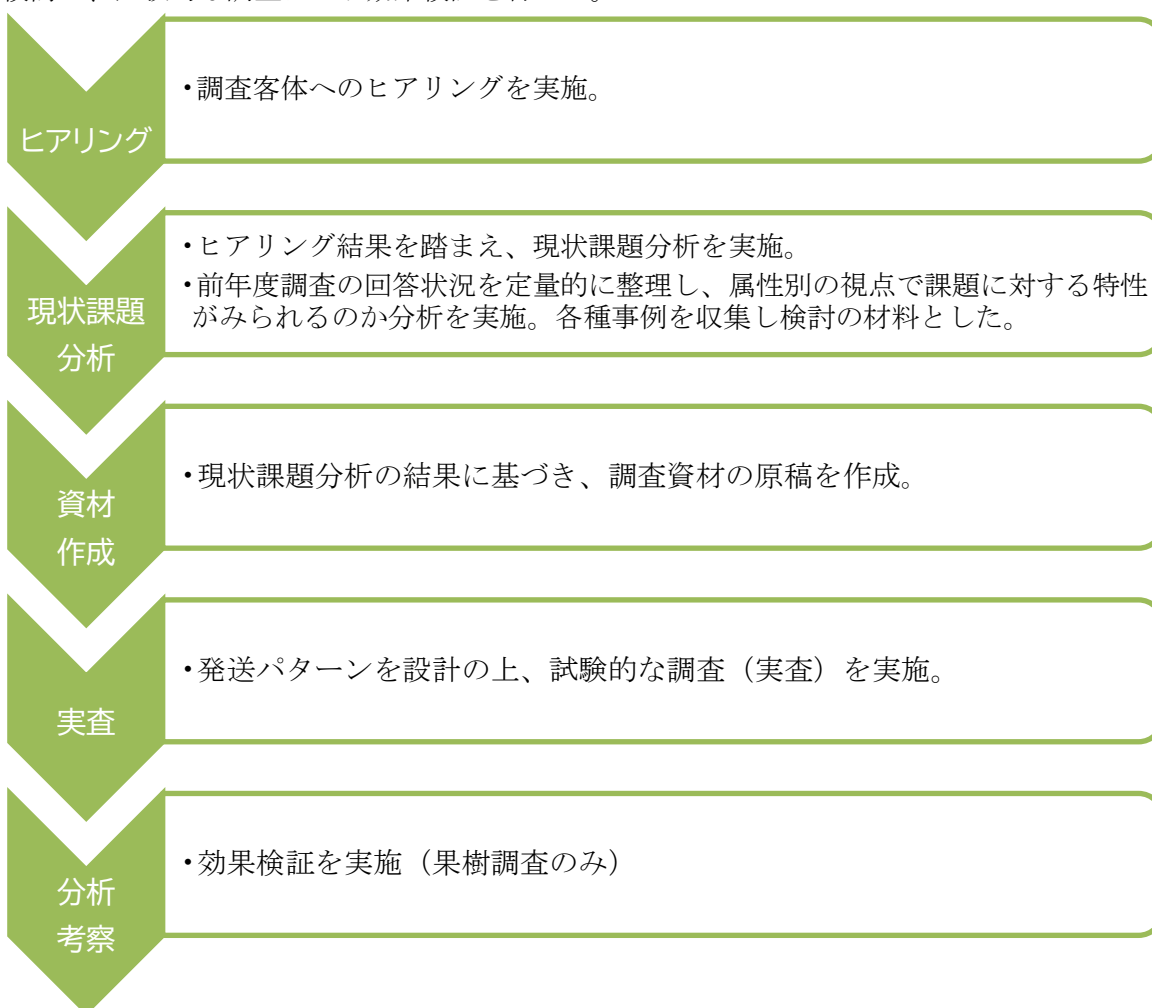
1.2.1.2 令和4年度農業構造動態調査（個人経営体調査）

調査対象数：28,708 客体

主な調査客体：世帯で事業を行う経営体（1戸1法人を含まない）

1.2.2 実施手順

本業務では、次の内容を実施することにより、対象統計調査におけるオンライン回答方式の課題を把握した上でナッジ手法の活用により改善策（調査用品のデザイン、調査票の配布方法等）を検討し、試験的な調査により効果検証を行った。



1.2.3 実施体制

本業務における実施体制はおおむね次のとおり。各作業工程において、農林水産省本省担当職員（以下、「本省担当職員」という。）と株式会社サーベイリサーチセンター担当者が両者協議の上、進めた。

NO.	実施内容	農林水産省	株式会社サーベイリサーチセンター
1	ヒアリング項目の作成	○	○
2	ヒアリング対象の設定・アポイント取得	○	-
3	ヒアリング事前アンケートの作成	-	○
4	事前アンケートの配布・回収	○	-
5	ヒアリング実施	○	○
6	ヒアリング実施結果とりまとめ	-	○
7	現状課題分析	-	○
8	調査資材原稿作成	-	○
9	調査資材の印刷・配布及び回収	○	-
10	調査結果の分析・考察	-	○

1.3 ヒアリングの実施

1.3.1 ヒアリングの基本的な要件

統計調査資材の作成にあたり、下記に示す調査客体等に対し、現行の対象統計調査における回答方式等に係るヒアリングを行った。

なお、具体的なヒアリング対象客体については、本省担当職員及び本省調査担当課職員にて事前を選定を行った。

<果樹調査>

- ヒアリング対象地域：埼玉県、長野県の2地域
- ヒアリング対象：集出荷団体（農業協同組合）職員
- ヒアリング対象客体数：9 客体。対象客体の内訳は次のとおり。
- ヒアリング実施時期：令和4年9月26日（月）～同年9月28日（水）

地域	人数	令和3年度調査時 回答方法	
		1. オンライン	2. 郵送
埼玉県	5	0	5
長野県	4	3	1
合計	9	3	6

<農業構造動態調査>

- ヒアリング対象地域：岡山県の1地域
- ヒアリング対象：個人経営体、統計調査員
- ヒアリング対象人数：5 人。対象の内訳は次のとおり。
- ヒアリング実施時期：令和4年10月6日（木）～同年10月7日（金）

対象	人数	令和3年度調査時 回答方法	
		1. オンライン	2. 郵送
農業経営体	3	1	2
統計調査員	2	—	—
合計	5	1	2

1.3.2 ヒアリング項目の作成

ヒアリング項目の作成については、本省担当職員と協議の上、作成をすすめた。ヒアリング項目には、以下の内容を含めることとし、その他オンライン回答率が低位に留まる原因の特定や回答率向上につながるアイデアが収集できる項目を検討した。

- ① オンライン方式ではなく、既存の郵送方式で回答を行う理由
- ② 郵送方式ではなく、オンライン方式で回答を行う理由

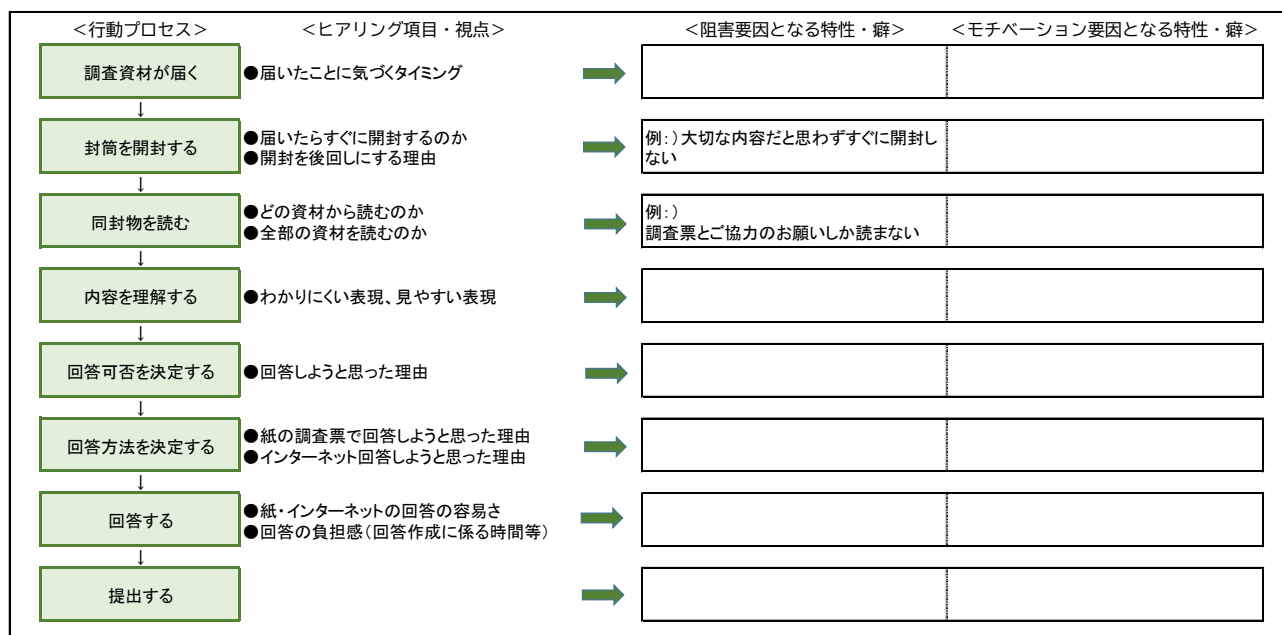
上記仕様にに基づき、ヒアリング項目の作成にあたった。

なお、本業務はナッジ手法を用いるため、調査対象者の行動特性を把握する必要がある。

このため、ヒアリング実施の狙いとして、本業務はナッジ手法の活用を目的することから、調査対象者の行動特性や癖をつかむために、調査票が届いてから回答するまでの一つひとつの対象者の行動を細かく洗い出すことを主軸に考え作成した。具体的な作業は次のとおり。

- 行動プロセスマップ（調査資材を受け取ってから実際に回答するまでの一つひとつの行動を整理した図表）を作成することでヒアリング項目案を作成した。
- 具体的には、「調査資材が届く」「調査資材が入った封筒を開封する」「同封物を読む」「内容を理解する」「回答方法を決める」「回答する」といった細かい行動の背景にどのような判断をして、その行動を選択したのかをヒアリングできるよう準備した。決定したヒアリング項目は別紙1ー1、1ー2のとおり。行動プロセスに沿って定量的な質問をし、回答内容によってその理由を更問する方法で作成した。

<行動プロセスマップとヒアリング項目イメージ>



1.3.3 ヒアリング実施のその他準備

行動特性を把握することを狙いとしており、令和3年度の調査時に使用した調査資材をヒアリング対象者本人に見てもらうことが望ましいことから、当日には調査資材の実物・オンライン回答画面イメージを見てもらうようにした。

また、果樹調査においては、定量把握項目が多いことから事前アンケートを送付し、回答結果の更
問をヒアリングすることとした。

1.3.4 ヒアリングの実施結果

ヒアリング実施結果（果樹調査においては事前アンケート結果含む）は、別紙2-1～2-3
のとおり。

1.3.5 現状課題分析（対象者行動の特性整理）

ヒアリング結果より、調査対象者の特性を行動プロセスごとに整理・分析をした。

1.3.5.1 果樹調査

果樹調査の結果は下表のとおり。

分類	行動プロセス	類似・共通	差異	ターゲット行動	具体的な内容
認知	1.調査資料が届く	①封筒を見ただけで当該調査と認識できる場合は「間を開ける」。 封筒で認識しない場合（同封物で認識しようとする意識がある場合）は「すぐに開ける」		△	封筒は取り扱わない
認知	2.封筒を開封する	②紙・オンライン問わず、調査項目（記入者の決定、回答作成に係る負担感の確認）と期限を確認する			
興味	3.同封物を読む	①慣れから、次の内容を確認する目的で資料一部のみ目を通す ・果樹調査と認識するため ・締め切りを確認するため ・対象品目はなにか確認するため ②はじめて対応する調査の場合は、依頼状を全体的に見る可能性（事前アンケート問1・2で「知らない」と回答した客体）	・ネット回答希望者が最初に見るもの→調査票（理由：調査内容・対象品目を確認） ・紙回答希望者が最初に見るもの→依頼状（理由：締め切りの確認）	○	依頼状にインターネット回答について強調
判断	4.回答可否を決定する	①紙・オンラインを選択する意思決定のタイミングは、調査資料が届いて、統計調査と認識した時点。 ②しかし、回答手法を調査毎に「選ぶ」という発想は、ない。 ③紙回答を選択する主な背景は苦手意識。 ④オンラインでやってください、と言われればやる、とのこと。			
行動	5.回答する	①インターネットチラシをはじめ、その他の書類は、この回答する段階で見る ②PC操作の苦手意識は、ログイン操作＜回答入力操作。 ③期限を意識して回答する。		○	チラシで後押し

1つ目のポイントとして、上表【3. 同封物を読む】行動プロセスにて特徴が見られた。ヒアリング時には、対象者へ「封筒を開けて、まず文章を読んだ資料はどれか」と尋ねている。結果は、「依頼状」と「調査票」の2つに分かれた。しかし、この2つの資料をそれぞれ選択した理由は、共通して＜何の調査か＞＜回答期限＞＜対象品目＞の情報を知るという目的であった。

特に＜回答期限＞については、他の行動にも関連しており、ヒアリング結果から「調査資料が手元に届いてもすぐには回答せず後回しにする」理由として、期限をまず確認していることが要因であることがうかがえた。

さらに、まず文章を読んだ資料として「依頼状」を選んだ対象者は全部で6客体だが、全て令和3年度調査時に郵送（紙）で回答している客体であり、「調査票」を選んだ対象者は全部で3客体だが、こちらは全て令和3年度調査時にオンラインで回答している客体であった。

ただし、「依頼状」「調査票」に記載されている情報を、全て目を通すのではなく、対象者自身がピンポイントで知りたい情報だけを確認することも共通意見として挙げた。この背景には、果樹調査の対象特性である「毎年調査へ回答していることによる慣れ（調査として悉皆調査かつ、調査対象品目ごとの年次調査であること）」が関係していると考えられる。

他方、この行動プロセスのタイミングで、オンライン回答に関する調査資料である「インターネットチラシ」を見ると意見は、挙げなかった。

2つ目のポイントとして、上表【4. 回答可否を決定する】行動プロセスにおいても特徴が見られた。ヒアリング時には、対象者へ「この統計調査を回答する時、紙（調査票）とインターネット（オンライン）のどちらで回答するのか」と尋ねている。結果は、「紙」6客体、「インターネット」3客体となり、令和3年度調査時に利用した回答方法から意見を変えた客体はいなかった。

更問として、それぞれを選択した理由を尋ねたところ、回答方法（紙・インターネット）を選択する意思決定のタイミングは、当該調査の依頼を受けたと認識した時点ではあるものの、回答方法を調査毎に＜選ぶ＞という発想はないという対象者の特性がうかがえた。

3つ目のポイントとして、上表【5. 回答する】行動プロセスにて、特徴が見られた。ヒアリング時には、対象者へ「パソコン・タブレット・スマートフォンの日常の利用頻度」について尋ねている。その中で、パソコン等操作の苦手意識について、具体的なシーンを尋ねたところ、ログイン操作より、その次段階となる回答内容入力操作に対して苦手意識があることがうかがえた。

最後のポイントとして、オンライン回答推進に向けたご意見を対象者に尋ねたところ、様々な事情はあるものの「オンラインでやってくださいと言われればやります」という意見が挙がった。

これらの整理結果から、ナッジ介入の設計として対象者が意思決定をするタイミングで目を通す「依頼状」をメインに調査資材を作成することとした。また、オンライン回答に関する調査資材である「インターネットチラシ」については、ヒアリングで意見があった苦手意識の課題（回答入力操作）があるものの、回答方法を選択する意思決定のタイミングでは当該資材は大きな要因にはならないと判断し、オンライン回答時の途中離脱に対するフォローの位置づけとして調査資材を作成することとした。

1.3.5.2 農業構造動態調査

農業構造動態調査の結果は下表のとおり。

分類	行動プロセス	類似・共通	差異	ターゲット 行動	具体的な内容
認知	1.調査資材が届く	・調査員によるインターネット回答案内は、客体への印象(高齢かどうか、という視点)で調査員判断によって説明が省略される。			
認知	2.封筒を開封する	・調査客体は、受け取った資材は、上から順に通りは見る。 ・資料は斜め読みに近い。		○	・封入順の工夫 ・依頼状への記載内容
興味	3.同封物を読む				
判断	4.回答可否を決定する				
行動	5.回答する	・横文字苦手 ・パソコンをそもそも持っていない(慣れていない)		○	・依頼状への記載内容 ・オンラインチラシの記載内容

1つ目のポイントとして、上表【1. 調査資材が届く】行動プロセスにて、特徴が見られた。当該調査は調査員による訪問留置調査であることから、統計調査員が調査対象者宅へ訪問し、協力依頼を行っている。ヒアリングでは、「調査依頼時、インターネット回答の案内を調査対象者に対して積極的に行うか」を統計調査員に尋ねた。意見としては、調査そのものの協力を得る必要があるという背景もあり、調査相手（高齢かどうか、という視点）を見て、統計調査員が現場で柔軟に判断した上で説明・資材配布をするか否かを決定するとあった。このことから、そもそもオンライン関連の調査資材を手にする調査対象者が限られてしまう可能性が考えられる。

2つ目のポイントとして、上表【2. 封筒を開封する】【3. 同封物を読む】行動プロセスでは、果樹調査同様「封筒を開けて、まず文章を読んだ資材はどれか」と尋ねたものの、調査対象者は、何かを意識して書類の中身を確認しようという考えはもたず、自身の大事そうだなと思う視点で、「受け取った資材は上から順に通りは見る」ことがうかがえた。ただし、資料そのものは斜め読みに近いこともうかがえた。

3つ目のポイントとして、上表【5. 回答する】行動プロセスにて、特徴が見られた。ヒアリング時には、対象者へ「パソコン・タブレット・スマートフォンの日常の利用頻度」について尋ねている。令和3年度調査時に紙回答をした調査対象者の意見として、パソコンを所有していない・パソコンは所有しているが自身は使わない（家族が使用）ということを経験した。一方、スマートフォンは利用しているものの、利用用途はメール・電話・ネット検索がメインであることから、サイトへの登録等色々入力しなくてはならないものは避けるとの意見があった。その背景には、まず第1段階として、操作手順のチラシ等を見ても記載されている用語がわからない（横文字）こと、第2段階として、チラシを見ながら自身で入力しようにも、入力（キータッチ）の操作がわからない（自分でチラシ通りの操作が再現できない）という理由が考えられる。

これらの整理結果から、ナッジ介入の設計として調査対象者の行動特性である「受け取った資材は上から順に通りは見る」という視点に加え、統計調査員訪問時の説明・配布判断が入る可能性を踏まえ、全ての対象者が手に取る「依頼状」をメインに調査資材を作成することとした。

また、オンライン回答に関する調査資材である「インターネットチラシ」については、ヒアリングで意見があった課題（チラシの用語がわからない、キータッチがわからない）があるものの、回答方法を選択する意思決定のタイミングでは当該資材は大きな要因にはならないと判断し、オンライン回答時の途中離脱に対するフォローの位置づけとして作成することとした。

1.4 資材の作成

1.4.1 資材作成の視点

オンライン回答推進に向けた調査資材を対象統計調査毎に異なるナッジ要素を盛り込んだ複数パターン作成をし、本省担当職員と協議の上確定させた。なお、対象統計調査の調査項目、調査票及びオンライン回答方法の変更については本事業の対象外とした。

加えて、農業構造動態調査については、回答方式問わず、調査回答率の向上に資する視点も踏まえて作成した。作成にあたっては、実施したヒアリング結果に加え、過去の公的統計調査の実務経験や、ナッジ手法活用の事例収集により、各種資材の視点を整理した。また、ナッジのフレームワーク「EAST」¹に沿って評価できるようにした。

E	Easy (簡単) 人は簡単で楽な行動をとりやすい。 一目で分かる。選択肢を少なくしてハードルを下げる。
A	Attractive(魅力的・印象的) 人は、魅力的なものを選びやすい。 相手の注意を引きつけるような仕掛けをする。
S	Social(社会的) 人は、社会規範に影響を受ける。 他の人が取っている行動を伝え、人を動かす。
T	Timely(タイムリー) 人は、タイムリーなアプローチに反応しやすい。 適切なタイミングで情報を提供する。

1.4.1.1 果樹調査

メインの調査資材にあたる「依頼状」については、調査客体が「依頼状」の中からも回答期限＞情報を採る特性を踏まえ、当該記載箇所を中心にオンライン回答について強調するような（目にとまるような）デザインを基本として作成した。

NO	作成資材	パターン	コンセプト	目的・視点
1	依頼状	ナッジ版①	オンライン回答を推奨したデザイン	オンライン回答を推奨(基本(当たり前))であるよう意図したデザイン。
2		ナッジ版②	オンライン回答に変更・切り替えのお願いとしたデザイン	毎年回答している調査という慣れの排除を目的に、切替・変更等の強い文言をいれたデザイン。
3	オンライン回答ガイド		ログインから回答送信まで一連の流れをフォロー	オンライン回答のログイン後から回答送信の一連の流れを掲載。回答途中での離脱抑制を狙う。
4	督促はがき		オンライン回答へ切り替え・変更のお願い	重要なお知らせとして未回答に対する督促と並列して、毎年回答している調査という慣れの排除を目的に、切替・変更等の強い文言をいれたデザイン。

¹ (The Behavioural Insights Team(BIT), 2012, <https://www.bi.team/>)

1.4.1.2 農業構造動態調査

果樹調査同様資材の目につく場所にオンライン回答を強調するようなデザインを基本として作成。加えて、農業経営体という対象特性から、過去の公的統計調査の実務経験等を踏まえて、「初心者 OK」をひと目でわかるようなデザインとした。

NO	作成資材	パターン	コンセプト	目的・視点
1	依頼状	ナッジ版①	オンライン回答を推奨したデザイン	オンライン回答を推奨(基本(当たり前))であるよう意図したデザイン。
2		ナッジ版②	オンライン回答に変更・切り替えのお願いとしたデザイン	変化をきらう人間の行動特性に対して、一瞬でわかるような強い文言をいれたデザイン。
3		ナッジ版③	オンライン回答へチャレンジ	オンライン回答による障壁などを排除したデザイン。
3	オンライン回答ガイド		ログインから回答送信まで一連の流れをフォロー	パソコン・スマートフォン初心者でも、オンライン回答を試みようと思わせるデザインとログインから回答完了までの一連の手順で実際に回答完了にたどり着けるようなデザイン。

1.4.2 【果樹調査】調査資材

果樹調査における依頼状3種の記載内容比較は「2.3.3 考察」を参照。

1.4.2.1 依頼状

(1) 従来版依頼状

様式第1号

作物統計調査への御協力をお願い（団体用）

《調査の目的》
農林水産省は、国民の方々へ生命の源である食料を安定的に供給する重要な使命を担っております。その使命を果たしていくためには、基本的な情報であります耕地面積や農作物の作付面積、収穫量等を正確に把握することが必要となります。
今回お願いしております「作物統計調査」は、国内の主要な農作物の作付面積、収穫量等を把握するもので、統計法に基づいて行うものです。

《調査をお願いした経緯》
この調査は、同封した調査票に記述してある農作物（品目）について、これまでに栽培及び取扱い実績のある団体等を対象に実施することとしており、この度、貴団体に調査をお願いすることとなりました。

《調査結果の守秘義務》
御回答いただいた内容は、統計法の規定により適正に管理され、秘密の保護には万全を期しておりますので、貴団体管内の農作物の生産状況について、是非ありのままを御回答くださるようお願いいたします。

《調査票の返送について》
○ 調査票を返送する前に、記入漏れや記入誤りがないか、再度御確認をお願いいたします。
オンライン調査に御協力いただける場合は、「オンライン調査システム操作ガイド」をよくお読みいただいた上で、回答をお願いいたします。
○ 記入いただいた調査票は、月 日まで
同封されている封筒に入れて返送又はオンラインで送信して下さるようお願いいたします。
○ 御多用のところ誠に恐縮ですが、本調査への御協力をよろしくお願いいたします。

お問合せ先

農林水産省

ヒアリング結果から

「オンラインでやってくださいと言われればやります」という意見が挙がっていたが、回答方法をオンラインで依頼している表現ではない。

過去の統計調査の実務経験から

- ①調査対象者は、資材の全文を読まない可能性から、色使いや文字のフォント・ポイントの変化など、強調が必要。
- ②調査対象者にとって、オンライン回答にメリット（魅力）を感じられる表現の必要性。
- ③文字だけではなく、イラスト等「目に留まる」デザインの必要性。

1.4 資料の作成

1.4.2 【果樹調査】調査資料

(2) ナッジ版①依頼状

作物統計調査へのご協力をお願い

日頃より農林水産省が実施する各種統計調査にご理解を賜り、厚く御礼を申し上げます。

農林水産省では、国内の主要な農作物の作付（栽培）面積、収穫量、出荷量等の現状とその動向を明らかにし、農林水産行政の基礎資料を整備することを目的に「作物統計調査」を実施しており、調査結果は、国民生活の基礎である食料の安定供給の確保のための施策推進等に利用しております。

この調査は、同封した調査票に記述してある農作物（品目）について、これまでに栽培及び取扱い実績のある団体等を対象に実施しており、この度、貴団体に調査をお願いすることとなりました。

ご回答いただいた内容は、統計法の規定により適正に管理され、秘密の保護には万全を期しておりますので、貴団体管内の農作物の生産状況について、是非ありのままをご回答ください。

なお、調査へのご回答に際しては、「公的統計の整備に関する基本的な計画」に基づき、オンラインによるご回答を推奨しています。

お忙しいことと思いますが、以下の手順にて回答期限までにご提出をお願いいたします。

回答手順

オンライン回答の手順（詳しくは同封のオンライン回答ガイドをご参照ください）

- 1 調査票に記載の品目・品種を確認する。
- 2 オンライン調査システムにログインする。
- 3 回答画面に沿って入力し、送信する。（参考に前回の値も確認できます）

回答期限 ○月○日

紙回答の手順

オンラインでの回答が困難な場合は、以下をご確認のうえ、同封の紙の調査票にてご回答ください。

提出する際は、「調査票」を「提出用封筒」に封入のうえ、郵便ポストに投函してください。

不明な点がある場合は、お電話にて確認させていただく場合がございますのでご確認ください。

お問い合わせ先

施策に基づいて、オンライン回答を推奨している旨アピール。

Attractive(魅力的・印象的)・デフォルト

ヒアリングで、開封後真っ先に確認すると意見があった「回答期限」の近くにオンライン回答手順を記載することで、依頼状の文章全体を読まない人でもオンライン回答の手順が目に入るように記載。

前回値が確認できることをアピールし、前回値を確認して回答したいという対象者に訴求する。

ヒアリング結果から、「回答期限」の近くにオンライン回答手順を記載することで、依頼状の文章全体を読まない人でもオンライン回答の手順が目に入るように掲載位置を変更。

回答手順として、紙回答よりもオンライン回答を先に掲載することで、基本的にオンライン回答、例外的に紙回答と感ずるよう記載。

(3) ナッジ版②依頼状

作物統計調査へのご協力をお願い

1 調査の依頼について
日頃より農林水産省が実施する各種統計調査にご理解を賜り、厚く御礼を申し上げます。
農林水産省では、国内の主要な農作物の作付（栽培）面積、収穫量、出荷量等の現状とその動向を明らかにし、農林水産行政の基礎資料を整備することを目的に「作物統計調査」を実施しており、調査結果は、国民生活の基礎である食料の安定供給の確保のための施策推進等に利用しております。
本調査は、同封した調査票に記述してある農作物（品目）について、これまでに栽培及び取扱い実績のある団体等を対象に実施しており、この度、貴団体に調査をお願いすることとなりました。
ご回答いただいた内容は、統計法の規定により適正に管理され、秘密の保護には万全を期しておりますので、貴団体内の農作物の生産状況について、是非ありのままをご回答ください。お忙しいと思いますが、回答期限までにご提出をお願いいたします。

2 【重要】回答方法変更のお願い
農林水産省では、統計調査へのご回答に際して、「公的統計の整備に関する基本的な計画」に基づき、オンラインによるご回答を推奨しています。統計調査をオンラインにて回答いただくことでシステムチェック機能により、記入漏れや数値の整合性が送信前に予め確認・修正ができます。回答精度の向上にも繋がります。
調査対象者皆様の統計調査への回答負担を軽減し回答精度を向上させ、よりよい調査へと導くため、ぜひオンライン回答にご協力をお願いいたします。

① 回答手順
オンライン回答の手順（詳しくは同封のオンライン回答ガイドをご参照ください）
① 調査票に記載の品目・品種を確認する。
② オンライン調査システムにログインする。
③ 回答画面に沿って入力し、送信する。（参考に前回の値も確認できます）
④ 回答期限 ○月○日

紙回答の手順
オンラインでの回答が困難な場合は、以下をご確認のうえ、同封の紙の調査票にてご回答ください。
・提出する際は、「調査票」を「提出用封筒」に封入のうえ、郵便ポストに投函してください。
・不明な点がある場合は、お電話にて確認させていただく場合がございますのでご了承ください。

お問い合わせ

Attractive(魅力的・印象的)

重要と赤字で記載し、回答方法変更のお願いを記載。

オンライン回答推奨文。

オンライン回答することによる、対象者側のメリットを記載。

① 【Attractive(魅力的・印象的)・デフォルト】

回答手順として、紙回答よりもオンライン回答を先に掲載することで、基本的にオンライン回答、例外的に紙回答と感ずるよう記載。

② 【Attractive(魅力的・印象的)】

オンライン回答を促進するようなアイキャッチを記載。

③ 前回値が確認できる旨をアピールし、前回値を確認して回答したいという対象者に訴求する。

④ ヒアリング結果から、「回答期限」の近くにオンライン回答手順を記載することで、依頼状の文章全体を読まない人でもオンライン回答の手順が目に入るよう記載。

1.4.2.2 オンライン回答ログイン情報

(1) 従来版オンライン回答ログイン情報

〇〇〇調査

回答はXX月XX日までにお願います
※インターネットで回答されなかった場合は、後日調査員が伺います

インターネットで 回答ができます

いつでも

期間中、好きな時間に回答できます。
入力中のデータは途中で保存ができ、後に作業を再開することも可能です。

どこでも

調査員が調査票の回収に伺いません。
紙の調査票を提出する必要はありません。パソコンの画面で調査回答が完了します。

安心

回答データは厳重に守られています。
回答の送信は暗号化されています。また、不正なアクセスなどの監視を24時間行っています。

オンライン(インターネット)回答のログイン情報

オンライン調査システムで利用する農事業者の利用者情報は、次のとおりです。詳しくは裏面の「操作ガイド-政府統計オンラインへのログイン-」をご覧ください。
※この利用者情報は、〇〇調査のみにご使用ください。また、第三者に譲らないよう取り扱いにご注意ください。

政府統計コード	11111113
調査対象者ID (ID)	22222223
初期パスワード (確認コード)	33333333

【お問い合わせ先】
農林水産省 大臣官房統計部生産流通消費統計課
☎00-0000-0000 ✉abcdefg@maff.go.jp
農林水産省

操作ガイド-政府統計オンラインへのログイン-

※パソコンのご利用環境によっては、利用できない場合があります。

- 1 Webサイトへアクセス**

Webサイト「政府統計オンライン調査総合窓口」(<https://www.e-survey.go.jp>)へアクセスしてください。

e-survey.go.jp もしくは **政府統計オンライン** Q 検索
- 2 システムへログイン**

次の手順でシステムへログイン、パスワードの変更をしてください。

[2-1] 政府統計オンライン調査総合窓口の「ログイン画面へ」のボタンを押します。



[2-2] 表面の利用者情報入力を入力し「ログイン」ボタンを押します。



▼を押して、統計調査を選択してください。
農林水産省『作物統計調査』コードは自動入力
この用紙表面に記載のある
『調査対象者ID』
『初期パスワード』
を入力し、「ログイン」ボタンを押してください。

[2-3] 新しいパスワードを設定します。
パスワードは調査対象者の確認のために重要です。大切に保管してください。



初期パスワードは仮ですので、初回で変更をお願いいたします。新しいパスワードを入力して「変更」ボタンを押してください。

メモ欄
- 3 データの入力**

画面の案内に従って連絡先の登録、回答データを入力してください。

今までの統計データおよび実施中の調査については農林水産省のWebサイトでも公開しています。
<http://www.maff.go.jp/tokei/> 農林水産省 統計 Q 検索

ヒアリング結果から

- ①ログイン後の入力操作手順について記載がない。

過去の統計調査の実務経験から

- ①ログインに係る操作方法について、「政府統計コード」は入力ではなく、プルダウン選択式であるものの、記載内容としては入力項目との誤認させる可能性を懸念。
- ②ログインの手順は「裏面」、ログイン情報は「表面」と分かれているため本資料を見ながらのログイン操作に不便さを感じる可能性を懸念。
- ③ログイン情報の文字の見間違い防止のため「ルビ」の必要性。
- ④オンライン回答における各種端末を想定し、QRコードによるスムーズなサイトへのアクセスの必要性。

(2) ナッジ版オンライン回答ログイン情報

従来版のA4サイズからA3サイズに変更し、見開きで操作方法を確認できるデザインとした。

【表・裏面】

回答時間の目安を記載。短時間で回答可能と分かることでオンライン回答のハードルを下げる。

メモ欄

お問合せ先

所要時間
5分

作物統計調査
オンライン回答ガイド

オンライン調査システムへのアクセス

- オンライン調査システムへはこちらからアクセスいただけます。
 - 検索サイトで検索 検索 ①
 - URL を直接入力 <https://www.s-survey.go.jp>
 - QRコードの読み取り (右図)
- アクセス後、画面中央上部の「ログイン画面へ」ボタンを押し、以下の画面が表示されたら、政府統計コードのプルダウンから「作物統計調査」を選択し、調査対象者ID・パスワード欄に下記のオンライン回答用ログイン情報を入力してください。

② ログイン情報

ログインするためには、あらかじめ配布されたオンライン調査に関する説明資料に記載されている情報が必要です。
政府統計コード、調査対象者ID、パスワードはすべて半角英数字で入力してください。

作物統計調査

選択

調査対象者ID

入力

パスワード

●あなたのオンライン回答用ログイン情報

調査対象者ID	えー えー ぜっど ぜっど いち に さん し
	AaZz1234
初期パスワード	えふ しー えふ しー さん に ぜろ に
	fCfC3202
新パスワードメモ欄	

※ログイン後自分で設定するパスワードは忘れずに覚えておいてください。 ④

ログイン情報の入力にあたって

- ログイン情報はすべて半角英数字で入力してください。
- 大文字と小文字は区別して入力してください。
- 誤ったログイン情報を5回連続で入力するとロックされますのでご注意ください(一定時間ログインできなくなります)。ロックは15分程度経過すると解除されます。時間を置いてから再度ログイン情報を入力してください。
- ログイン情報は第三者の目に触れないよう、取扱いに十分ご注意ください。

① 【Easy (簡単)】

QRコードをつけることで、調査サイトへのアクセスを容易にする。

② 【Easy (簡単)】

ログイン画面キャプチャとログイン情報を近くに配置し、表面（片面）を見るだけで回答画面までたどりつくような作りとした。

③ プルダウンで「選択」なのか文字を「入力」なのか迷うことがないよう指示の指定を記載。

④ 【エラーの予期】

ログイン後、新パスワードの設定を行うことから「新パスワードメモ欄」を追加。

【中面】

①

1

調査票の画面では、**回答入力画面へ** をクリックして回答を始めます。

一度途中で回答を中断している場合は、**一時保存した回答の取得** をクリックしてください。

2

品目番号の記載のある欄について、それぞれ結果樹面積、出荷量、うち加工向けの数値を入力してください。

入力を終えたら、**次のページに進む ->** をクリックして、次の質問に続きます。

3

結果樹面積の主な増減要因について入力し、次に主な増減地域や増減面積について入力してください。

入力を終えたら、**次のページに進む ->** をクリックして、次の質問に続きます。

4

収穫量の増減要因等について当てはまるものをそれぞれ選択してください。被害以外の増減要因（品種、栽培方法などの変化）があれば、入力してください。入力を終えたら、**回答送信・増減面積に進む ->** をクリックします。

5

2～4の回答内容の確認画面が表示されます。回答内容を修正したい場合は、**<- 前のページに戻る** をクリックして修正したいページに戻り、修正してください。

修正がなければ、**回答データの送信** をクリックしてください。これで回答は終了です。

① 【Easy (簡単)】

- 文字だけの説明にならないよう、常に画面と画面のどの位置にあるボタンなのかを記載し一目見ただけでわかるような作りとした。
- ② 途中で回答を中断し再度ログインした場合、「一時保存した回答の取得」を押すことで前回保存した状態から回答できるなど、回答者に配慮した作りとした。

1.4.2.3 督促はがき

(1) 従来版督促はがき

日頃より、農林水産省が実施しております各種統計調査にご協力いただきまして、厚くお礼申し上げます。

先日、「令和〇年産〇〇〇〇〇調査」の調査票を送付させていただきました。

御多用のところ誠に恐縮ですが、調査票にご記入いただき、〇月〇〇日(〇)までに返送していただければ幸いです。

ご記入いただいた調査内容は、統計を作成するためだけに使用し、調査内容を他人に漏らしたりすることはないことを、念のために申し添えます。

ご不明な点がありましたら、下記の担当者までご連絡ください。

なお、行き違いで、すでに調査票をご返送いただいている場合には、何とぞご容赦くださいますようお願い申し上げます。

●●●農政局〇〇県拠点

〒〇〇〇〇-〇〇〇〇

〇〇県〇〇市〇〇〇〇 〇〇合同庁舎〇〇

電話：〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

FAX：〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

担当：統計チーム 〇〇〇〇・〇〇〇〇

○

過去の統計調査の実務経験から

①オンライン回答依頼に関する記載がない。

(2) ナッジ版督促はがき

 郵便はがき - 「作物統計調査」に関する重要なお知らせ 問合せ先 ●●●農政局○○県拠点 〒000-0000 ○○県○○市○○○○ ○○合同庁舎○○ 電話：○○○-○○○-○○○○ FAX：○○○-○○○-○○○○ 担当：統計チーム ○○○○・○○○○	回答方法・回答期限に関する重要なお知らせ 平素より各種農林水産統計調査の実施にご協力いただき、ありがとうございます。 ○月○日締切で「作物統計調査（果樹収穫量調査）」の調査票をお送りしましたが、ご回答が確認できなかったため、本状にてお知らせいたしました。 お忙しい中恐縮ですが、○月○日（○）までに回答の入力・送信をお願いいたします。 なお、本状と入れ違いで既にご回答いただいている場合は、失礼の段、ご容赦ください。 オンライン回答への切替のお願い 調査対象者皆様の回答負担を軽減するとともに、回答精度の向上を図るため、できるかぎりオンラインによる回答をお願いしております。 何卒ご理解のほどお願いいたします。 ※オンラインでの回答が困難な場合は、先にお送りした書類に同封の「調査票」へ記入の上、「返信用封筒」にてポストへ投函をお願いいたします。 ※書類がお手元に届いていない場合やご不明な点がありましたら、はがき表面の連絡先までご連絡ください。
--	--

Attractive(魅力的・印象的)

「オンライン回答切替のお願い」と切替という文言を使うことで、紙回答に慣れてしまった人でもオンラインで回答をしようという気持ちにさせる。